



総務省が22日発表した2

消費者物価 2.8%上昇

2月4カ月ぶり伸び拡大

月の全国消費者物価指数(2020年=100)は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が106.5と、前年同月比2.8%上昇しました。上昇は30カ月連続で、4カ月ぶりに伸びが拡大しました。電気代、都市ガス代で、政府の負担軽減策による押し下げ効果が縮小したのが要因。

エネルギー価格全体では1.7%下落で、1月の12

・1%から下げ幅が縮小しました。政府の負担軽減策が開始から1年経過したことで前年同月比を引き下げる効果が一部剥落。低下幅は、電気代が2.5%(1月は21.0%)、都市ガス代が13.8%(同22.8%)となりました。ガソリン代は4.5%上昇しました。

生鮮食品を除く食品は5.3%上昇。伸び率は6カ月連続で縮小しましたが、

依然高い伸びとなっています。菓子類が9.6%、調理食品が5.6%それぞれ上昇しました。宿泊料は内外の観光需要の回復で33.3%の上昇となりました。

生活実感に近い生鮮食品を含む総合指数は2.8%、生鮮食品とエネルギーを除く総合指数は3.2%、そ

れぞれ上昇しました。

物価の伸びをモノとサービスで分けると、モノは3.3%上昇、人件費の割合が高いサービスは2.2%上昇でした。総務省は「春闘の結果をはじめとする賃金動向を踏まえ、サービス価格がどうなっていくか注視が必要」としています。